

【実践報告】

「保育実習及び保育実習指導」の報告

広島文教大学人間科学部人間福祉学科

准教授 清水 克之

准教授 中嶋 一恵

1 はじめに

人間福祉学科では、社会福祉士国家試験受験資格取得とともに、保育士資格取得を目指し、保育士課程を履修することが可能である。人間福祉学科の保育士コースの理想とする人物像として「保育の基礎的な知識・技術とともに福祉の諸領域に共通するソーシャルワーカーとしての素養と、それを土台とした社会福祉の専門性を身に付け、特別なニーズを必要とする子どもや保護者あるいは地域社会に対する総合的な子育て支援に貢献できる人材」を掲げており、人間福祉学科の保育士コースはソーシャルワークを土台とした学びであることが特徴である。

保育士資格の取得を希望する学生は、1年次後期から専門教育科目として保育科目を履修し、保育士業務に関連した対象、制度、支援方法について学びを始める。2年次後期からは、保育実習指導ⅠA、続く3年次前期の保育実習指導ⅠBにおいて保育実習の準備教育を進め、3年次8～9月に保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅰ（施設）の2種類の実習を経験する。その後、3年次後期に保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲで更なる準備教育を行い、3年次2～3月に保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲにおいて実習を重ねて、段階的に効果的な実習体験ができるような構成になっている。実習施設は、児童福祉施設（保育所・保育所以外の児童福祉施設と障害者支援施設の一部（以下「施設」という。））である。また、学生は社会福祉士としての学びも並行して行っており、全保育実習の前後に社会福祉実習としての施設実習も行うことから、相互に効果を高められるように学科内の連携が不可欠である。

2024年度は2年次生9名、3年次生15名が履修した。

2 実施スケジュール

科目	単位	開講期
保育実習指導ⅠA	必修 1単位	2年後期
保育実習指導ⅠB	必修 1単位	3年前期
保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	必修 各2単位	3年8～9月
保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	選必 1単位	3年後期
保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	選必 2単位	3年2～3月

- ① 入学後4月中に「保育士履修説明会」を行い、保育実習の時期をはじめとしたスケジュールも説明し、目的意識と見通しを持って学修を開始できるようにしている。
- ② 2年次前期末に「保育実習指導Ⅰガイダンス」を実施し、国家資格としての保育士資格取得であることの認識を深める。

(1) 保育実習指導 I A：2年後期（1単位）

「保育所・施設実習の意義」、「保育所・施設の役割と機能」、「実習施設の理解」の学修に際して、保育士の業務や社会的養護、障害の理解などについてのこれまでの学修を振り返り、小テストを実施して専門的知識の定着を図った。

特に、イメージするのが難しい施設保育士の仕事について、学生が具体化できるように、児童養護施設と障害児入所施設に関するDVD教材を活用した。具体的には、DVD教材の視聴時にその要点をワークシートに記入させた後、グループワークによりワークシートの内容を完成させた。そのワークシートの記入内容については、グループごとに解答させた。その解答内容に教員が評価を行うとともに、施設保育士の仕事や入所児童に関する知識について補足説明を加えることで深い理解が行えるよう取り組んだ。学生は、1日の流れを場面ごとに細かく試聴することで具体的なイメージができ、生活支援が持つ意味に気付くことができていた。また、実際に施設の保育士がやりがい語る場面は心構えの学びに効果があったことが見てとれた。

さらに、今年度の新たな取組として、広島県庁健康福祉局安心保育推進課による保育園長・保育士の交流会（出前授業）を取り入れ、保育実習に向けての意識づけを行った。学生は、現場の保育士の実習生に対する思いを聞いて、実習への期待を膨らませるとともに、いい実習が行えるよう気を引き締めているようであった。

こうした学修の後、学生は内諾訪問に至るまでの書類作成などの準備や、自らが実習先とやり取りを行う中で、様々なマナーや配慮の必要性、適切な報告、連絡、相談などの基本的態度が必要なことを理解していった。毎回記入する「学修の記録」には、そのプロセスにおいて学びがあることが記されている。また、春休みには、現場で子どもとのコミュニケーションのきっかけにも使うことをイメージしながら取り組む「名札作り」や、すぐに実習で実践できるように「絵本の読み聞かせ」の練習、衣食住の生活援助ができるように家事に取り組み、その報告をする「家事レポート」を課題として出し、実践力の形成を求めた。

(2) 保育実習指導 I B：3年前期（1単位）

①保育実習の心構えと実習の基礎的な知識と技術を身に付ける、②子ども理解に基づく支援を理解する、③保育士の職務にかかる基礎的な実践力を身に付けることを目標とする。

保育実習指導 I Aを踏まえて、まず「目標と課題の設定」に取り組む。「子ども理解」「保育士理解」「環境の理解」の3点から、実習で取り組みたい自身の課題を設定する。これは、一斉授業の中で説明を行った後、担当教員との意見交換を経て完成をさせていく。並行して「保育所理解」、「施設理解」、「日誌の書き方」、「保育士の倫理」、「個人情報の取り扱い」、「実習の心構え」、「健康管理」、「危機管理」について学修を進めていき、実習先への事前訪問を行うことで事前準備が完了することになる。実習直前の指導としては、「健康管理」、「危機管理」について事例や小テストを入れて丁寧に取り組んだ。

実習開始の約1か月前に、4年生の「保育実習報告会（事後考察報告書に基づく発表）」を実施したが、実習前の3年生も参加し、質問等交流の時間を持った。実習の緊張や不安感が軽減される貴重な機会となった。

(3) 保育実習 I（保育所）及び（施設）：3年前期（8月～9月）（2単位）

保育所及び施設において各10日間の実習を行う。今年度は8月19日～30日、9月9日～30日を基本期間として施設と調整を行った。実習中には、保育コース担当教員が分担して訪問指導を実施した。学生は、感染症罹患などの状況はなく、順調に実習日程を終えた。しかし、子どもとの関わりや

社会人としての振る舞いなどで指導者からの指摘を受けた学生もいた。この点については、個々の学生に直接指導するのはもちろんであるが、来年度以降の保育実習指導の授業改善の検討課題である。

(4) 保育実習指導Ⅱ・保育実習指導Ⅲ：3年後期(2単位)

実習後「個別事後考察報告書」を基にグループと全体とでディスカッションを行い、多様な体験や指導から学び合うことで、次の実習に向けた課題を明確にした。また、実習施設からの評価開示面談を実施し、学生の作成した自己評価とすり合わせながら個別の振り返りも行った。このようにして保育実習Ⅰを踏まえた成果と課題を明確化した後、保育実習Ⅱ・Ⅲでの段階的な学びとなるよう「目標と課題(Ⅱ・Ⅲ)」を設定し、次の実習に臨む準備を行った。

「保育士の倫理」、「保育実習の心構え」は、事例を用いてディスカッションを行うことで様々な視点を学び、ワークシートや小テストで更なる確認を図った。また、健康管理及び危機管理については様々な実例を基に指導を徹底した。

(5) 保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ：3年後期(2月～3月)(2単位)

保育実習Ⅰを踏まえた発展的な学修として、保育所または施設で10日間の実習を行う。今年度は2月13日～2月27日を基本に調整している。

保育実習Ⅱの目的は、「保育所の役割や機能の具体的展開の理解」、「観察に基づく保育理解」、「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携の理解」、「指導計画の作成、実践、観察、記録、評価」、「保育士の業務と職業倫理の理解」、「自己課題の明確化」であり、保育実習Ⅲは、「施設の役割と機能の理解」、「施設における支援の実践」、「保育士の多様な業務と職業倫理の理解」、「自己課題の明確化」である。ちなみに、保育実習ⅢはⅠとは異なる種別の施設で行うことにしており、多様な施設の理解につなげている。

4 成果と課題

(1) 実習指導科目

事前準備としての保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ・Ⅲでは、保育士科目の内容を具体的な保育場面に落とし込んで学び、実習の目標と課題を設定し、実習で取り組み、自己評価と施設からの評価とで総合的に振り返り、次なる課題に取り組むという流れを作ることができている。

(2) 今後の取り組み

実習施設から実習に臨む真摯な態度は全般的に高く評価されていたが、子ども・利用者との関わりの消極性や指導担当保育士への質問の少なさを指摘されることがあり、これは今後の課題である。子どもや利用者に関わる経験の不足や多忙な保育士に配慮しすぎて質問できなくなっていることが原因であると推測され、対策を検討したい。

児童福祉施設は、「子どもの最善の利益」を理念としており、「子どもの権利」について擁護する立場であることへの理解を深めて臨む必要がある。また、児童養護施設においては、集団生活という捉えではなく、家庭的養育を促進することが期待されており、生活支援の持つ意味、プライベート・ゾーンの尊重、外部の実習生としての子どもとのコミュニケーションの取り方などを従来以上に丁寧に学ぶ必要があり、これらは重点的な課題として挙げられる。また、子どもの権利の中でも「子どもの意見表明」を促進すべく新たな取組が始まっていることも十分認識して実習に臨む必要がある。

(3) 社会福祉実習との関係

人間福祉学科の保育士コースの学生は、保育実習の前後に社会福祉実習を体験することになる。この実習の連続の中で目標とするソーシャルワークを土台とした保育の学びが自ずと進む面はあるが、今後、保育実習と社会福祉実習の連続的体験の中で学修できることについても更に学科内の連携で取り上げていくことが望まれる。

(4) 実習後の保育士科目とのつながり

保育実習後に履修する「子育て支援」、「障害児保育」、「社会的養護Ⅱ」、「家庭支援論」等の科目については、保育実習での体験を活用することでより効果的に学ぶことができると考えられるので、今後教員間の連携を強めることが望まれる。

(5) 就職活動との関係

人間福祉学科の保育士資格取得学生の就職先は、施設が主となっている。施設では、施設種別に応じた様々な保育の専門性が求められ、その専門性も進化してきている。保育士の学修の中で施設現場とのつながりを維持し、学生が専門性の高い内容に触れること、また、先輩保育士と接触して各種別の保育士の活躍をより身近に学ぶ機会を作り、各自の特性と照らし合わせて進路を考える機会が必要である。